

令和8年度 広島・愛媛交流会議 議事録

開催日時：令和8年7月27日（月） 13:30～14:45

開催場所：大三島 憩の家（今治市大三島町宗方 5208-1）

出席者：

【行政】愛媛県知事 中村 時広

広島県知事 横田 美香

【経済界】愛媛県商工会議所連合会会頭 三好 賢治

広島県商工会議所連合会会頭 松藤 研介

1 開会

（愛媛県 企画振興部長）

それでは定刻となりました。本日の広島・愛媛交流会議で進行役を務めさせていただきます愛媛県企画振興部の三好でございます。ただいまから令和8年度広島・愛媛交流会議を開催いたします。本日の会議は、14時40分までとなっており、そのあと記者会見を予定しております。開会にあたりまして、中村愛媛県知事をご挨拶申し上げます。

2 開会あいさつ

（愛媛県 中村知事）

本日はご多用の中、広島県から横田知事、そして松藤会頭、また地元からも三好会頭にもご出席をいただきありがとうございます。

この広島・愛媛交流会議は平成5年から始まっていまして、今回で31回目を迎えます。私も毎年、10数回参加をさせていただき、本当にこの会を通じて、広島と愛媛県が共同してこういったことに取り組もうというような合意が形成され実現したものがたくさんございました。特にこのしまなみ海道、私が就任した時は本当に水産業とそれを主とした観光ぐらいだったんですけど、この景観何とかならないかなということで、前の仕事でしま博覧会というものを松山市で行ったことがあります。その拡大バージョンをやりたいというような夢がありました。

それとこちらにきた時に、自転車専用道路を活用して世界に情報発信できないかなというような夢を抱えて、そして広島でも瀬戸内海の道構想という考え方を出されて方向性がマッチして、色々な取り組みを共同で進めてきた経緯があります。本当にもう見違えるように民間投資が入り、観光というふうな観点から様々な注目をされるような成長ができたところでございます。

今日はその代表的な場所として、ちょっと高級バージョンのWAKKA、そしてこちらはぐっと入りやすい経済的な価格で泊まれるこの場所の2ヶ所を見てもらうということになりましたけれども、本当に今年は特に世界大会もありますし、また次なるステップについても議論ができたというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げまして、開会にあたってのごあいさつとさせていただきますと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（愛媛県 企画振興部長）

ありがとうございました。続きまして意見交換に入らせていただきます。意見交換につきましては、中村知事に進行役をお願いいたします。

3 意見交換

（1）広域観光連携の推進について

（愛媛県 中村知事）

それでは進行の方を務めさせていただきます。

まず1つ目の議題は、広域観光連携の推進についてでございます。こちらは私の方からまず発言をさせていただきたいと思います。国全体では円安という背景もあるんだとは思いますが、日本のサービス・観光資源が世界的にも注目をされて、インバウンドが増加傾向にあ

ります。さらに国の目標は、インバウンド6,000万人、うち3分の2にあたる4,000万人をリピーターとするという目標が立てられてますけれども、ただもう本当に定番である東京、京都、大阪、福岡等々の主要な観光地はもう筒いっぱいという状態で、地方の魅力というものを広めていかなかったらこの全体的な数字の達成というのは不可能だというような状況もあるんじゃないかなと思います。

現に場所によってはオーバーツーリズムの問題が逆に大きな問題となっていますので、そういう意味では伸びしろということを考えると、中四国はチャンスありというふうな段階に入るんじゃないかなというふうに思ってます。特に広島県さんは、新幹線もありますし本州にあるということで、その送客等の優位性というのがありまして、私どももぜひその力を借りれたらなというふうに思ってます。

京都・大阪の方の旅行者のデータを見てみますと、広島には泊まるのですがその次なる目的地が大体福岡になっているという傾向が顕著でありまして、しかし広島から下に入っていくという、この四国への道筋というのはまだまだこれから伸びしろだと思っていますので、受け入れ側としての私どももしっかりと力を入れていきたいと思っています。かつ中四国のメニュー、多様なメニューというものがリピーターを生むには絶対必要だというふうに思ってますので、観光を中四国の自治体とも連携しながら、広域エリアでの働きかけを強めていきたいというふうに思います。

またさらに、瀬戸内海をせっかく有しておりますから、スーパーヨットをこれも世界中から確保するような瀬戸内海全域での取組というのが、非常に効果があるのではないかなと思いますので、こうした連携も強めていきたいというふうに思います。

そして次にサイクリングでございます。2014年の初開催から今年で6回目を迎えますけれども、本当に認知度は高くなってきたと思いますし、もう本当に始めた頃は全く知名度がない状況の中からスタートでしたけれども、アメリカでも放送局の世界7大サイクリングコースの1つにも選定されたり、今回後で触れますけれど世界最大の自転車会議Velo-city、これが何でEUから飛び出して愛媛で決まったかという、各国の関係者がしまなみを走りたいと、もうこの知名度が誘致成功の大きな鍵になりました。それぐらいのポテンシャルを発揮し始めてますので、より一層連携を強めていきたいと思っています。

ただ、多くなってくると心配な点が、事故やルール・マナーの逸脱、こうした苦情というものが観光コンテンツを錆びつかせていく大きな原因になりますので、これはもう徹底的に力を入れていかなければいけないのではないかなというふうに思いますので、こちらでも連携しながら進めていきたいというふうに思います。

そこで1つ提案なんですけども、2029年にしまなみ海道が開通30周年という節目の年を迎えます。これまで当初から高速道路を止めて開放するイベントも1つの売りになるだろうということで、隔年でやってきましたけれども、ちょっと最近ですね、本当にこのままでずるずるとやっているだけでいいのかなと、やっぱりやっているとどうしてもマンネリ化ということが常態化しますので、この30周年の時にちょっと趣向を変えて1年後送りにして、当初最初にやった島博・しまのわ、島をターゲットにしたちょうどあれから10年経ちますので、第2回目のしまのわのような、島を舞台にした30周年記念イベント、そこに1年遅らせて自転車の大会もぶつけていくというぐらいの両県が力を合わせた取組をしてもいい30周年になればなという思いを、先般の会議の時もちょっと触れさせていただいたんですが、是が非でもやりたいなという強い思いがあるので、提案をさせていただきたいと思っています。

最後に私の方から先ほどのVelo-cityでございます。来年5月に通常はEUで開催されますけれども、これまでEU以外で開催された例は、アジアでは台湾の台北市のみでありまして、2回目のアジア開催、日本では初開催ということで4日間の国際会議になります。

この会議は、自転車を活用したまちづくりを議論する学術会議でありまして、ここで決まったことがEU各国に持ち帰られて、そのサイクリスト関係者が各国の政府や自治体に働きかけて共通ルールが作られています。例えばEUの自転車専用道路の印、或いは自転車専用の信号機、或いは自転車専用のロータリー、これがEU共通仕様になったのはこのVelo-cityがきっかけになっていまして、世界でも最先端のまちづくりの情報が手に入る、かつ日本の取組をEUに紹介する・連携を強めていくきっかけになる会議だと思っています。

また、論文形式で取組を各自治体参加地域がPRする手法もとれますので、ぜひ広島県や広島

県の自治体にも、自転車を活用したまちづくりという観点でご参加をいただけたらというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは続きまして横田知事の方からお願いいたします。

(広島県 横田知事)

中村知事ありがとうございます。

改めまして今日の両県の会議を準備してくださった皆様ありがとうございます。

今回で31回目という大変歴史の長い会議ということで、私は今回初めて参加をさせていただきますけれども、本当に大変嬉しく思っております。そして今日はこれまでWAKKAさんとそしてこの憩いの家ということで、すばらしい宿泊施設を拝見させていただきまして、本当に瀬戸内海の多島美をこれだけ堪能できるような施設ということで大変感動しているところでございます。

先ほど中村知事から昔は何もなくてという話がありましたけれども、本当に皆様のいろんな努力の結果観光地の価値として大変向上してきているということを大変感じることができました。先程伸びしろもたくさんあるんじゃないかという話もありましたけれども、私としても大変それは感じておりまして、今広島県もこのインバウンドを中心として大変多くの観光客の皆様が世界中から訪れていただいております。広島も令和7年の外国人の宿泊者数ということで約212万人を記録しております。これは過去最高ということでございます。

ただ一方で、広島で言うと原爆ドームと宮島という二つの世界遺産にかなり観光客が集中しているという状況です。広島県としてはこれを何とかもう県内全体そして今お話がありました、中四国全体に観光客の皆さんがこう周っていただいて、そして多彩な魅力を感じていただきたいという思いでおります。

そしてレンタサイクルなども今大変増えておりまして、このしまなみ海道を中心として世界に向けてこのサイクリストの聖地ということで、今まで大変な努力で取り組まれてきたその結果が、今表れてきているのかというふうに思っております。尾道でレンタサイクルをやっておりますけれども、外国人観光客の利用台数はコロナ前と比較して約3倍となっております大変大きく増加をしております。

ただ課題としましては、やはりもっといろんなところに行ってもらうために、地域の様々な宝・資源を磨いていかなければいけないと思っておりますので、広島県は今年の4月から宿泊税を導入いたしました。この宿泊税を市町とも連携しながら、各地の様々な、訪れていただく所の環境整備であるとか、或いは観光資源磨きという所に使っていくながら、オーバーツーリズムを避けつつ居心地の良い観光ができるところをしっかりと作ってまいりたいというふうに考えております。

そしてまた消費単価が今段々とうり上がってきております。これは物価高というところもあるんですけど、世界の観光に対するニーズとしては、より高付加価値な体験をしていきたいということもあるかと思えます。そういったものをしっかりと取り込んでいくように、せとうちDMOとも連携しまして、そして経済界とも是非とも連携をして、しまなみエリアそして瀬戸内をしっかりと堪能できるような泊まる・食べる・楽しむの充実に向けた、エリア一体となった取組、魅力の発信ということにつなげていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

そしてサイクリングのお話がありました。これもしまなみ海道に関しましては、今年しまなみ2026ということで大きな大会になりますけれども、次は2029年が30周年ということでございまして、2年おきにやってきたものを1年後ろ倒して、しかもこれまではないものを作っていくということには大変賛同するところでございます。是非ともいろんな知恵を出し合いながら、少し特徴のあるものにしていきたいというふうに思っております。

もう一つは、まさにこのサイクリングしまなみがこれまで継続的に開催されることによって世界に対する認知度というのは大変上がってきていると思います。ただ、これからどのような方法でさらなる観光客を取り込んでいくのか、或いはその一時期だけではなく年間を通じていかに観光客の皆さんに来ていただいて、通常ベースで利用していただくというところをどうすればできるのかということを考えてまいりたいというふうに考えております。

それともう一つ、大会をやることは大変すばらしいことで、しかも高速道路を封鎖して自転

車だけが通れるようになるということはすごく特別感もあっていいことなんですけれども、ただ今その周りの人口減少であるとかそういったことが進んでおりまして、高速道路を規制するということになりますと、やはり船舶など地元の住民の方々の代替交通の確保ということ、これをやっていかなければいけないんですけれども、ここもだんだんと難しくなってきているという点がちょっと懸念される点であります。今日も海を活用した、船を活用した観光もご紹介いただきましたけれども、そういったこともしっかりと活用しながら大会をする時の代替交通、いわゆるこの航路というのもこれから課題として考えていきたいというふうに思っております。

また特別感があるということで今日も宿泊施設とレストランということも紹介をしていただきましたけれども、やっぱりそこでいかに滞在をしていただいて食事をとっていただく、或いは地元のすばらしい食を進化させていくということも大事だと思いますので、こういったことも含めて、愛媛県さんそして関係市町、経済界の皆さんとも一緒に検討していきたいと思っております。

そして最後に Velo-city2027Ehime ということでご紹介をいただきました。このサイクリングに関していろんなルールをこれまで定めてこられたということでございますけれども、中村知事がおっしゃるとおり、これからはもっともっとこれを拡大していくためには、安全性であるとか事故をどう防ぐか、或いはルール・マナーというところが大変重要だと思います。是非国際会議ということでございますけれども、広島県としても参加をさせていただいて、これからの自転車を活用したまちづくりの先進事例を学ばせていただくとともに、これからの政策の検討にさせていただきたいと思っております。またしまなみだけではなくて、ちょっと広島県内のサイクリングに関する発展ということでご紹介をさせていただきますと、広島県は中国山地の方もありまして、豊かな山の魅力を体感できるようなサイクルツーリズムの推進ということも取り組んでまいりたいと考えております。具体的にはマウンテンバイクを楽しむための様々な環境整備であるとか、普及促進を進めていこうとしているところでございます。この中山間においても、持続可能なアクティビティにこのマウンテンバイクというものを推していきたいというところで、現在コースの調査だとか人材育成などに取り組んでいるところでございます。ぜひこの点も含めてまたいろんなお知恵をいただきたいと思っております。ありがとうございます。

(愛媛県 中村知事)

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、三好会頭をお願いします。

(愛媛県商工会議所連合会 三好会頭)

愛媛県商工会議所連合会会頭の三好でございます。

私も昨年 11 月に会頭就任しましたので今回初めての参加となっております。よろしくお願いします。

まず商工会議所として本当に観光振興というのは地域経済を維持するという意味では、非常に重要な政策であるというふうに考えておりまして、私が就任して今年 3 月に、これは松山商工会議所において人口減少社会を見据えた産業ビジョンを取りまとめました。その中で、観光産業を成長産業と捉えて、観光振興を重点的にするというようなそういった戦略を打ち立てております。もちろん、今国際定期便が週 24 便ほど韓国台湾から飛んできておりまして、インバウンドが大幅に増加をしております。このインバウンドの拡大と同時に、先程ちょっとありました消費単価をやはり上げていくということの中で、経済効果をしっかりと高めていくということが会議所の会員なんかにとってみたらかなりプラスになってくると、こういうことで力を入れていきたいなということを考えております。

そして観光コンテンツというのは、地域資源の中に我々やはり気づいていない観光コンテンツが結構あるんじゃないかというふうに思っておりまして、一般的に愛媛県は、四国遍路とか石鎚山とかこのしまなみ海道とかということで、メジャーな観光資源もたくさんあります。そして地方に行けばもっと色々あるんですけれども、なかなか交通インフラが十分とは言えないということで、この整備が大きな課題になっているなということでございます。特に我々愛媛県でいくと、南の方の南予の辺りに行くと中々交通の便が悪いというそういうようなこともあ

ります。そして我々はそういうコンテンツをこれからどう活かしていくかという中で、1つ松山商工会議所としてはマインドフルネスとかリベラルアーツ、そういったコンテンツの造成に取り組んでいるというところです。これは世界の富裕層とか経営者層というのが、このマインドフルネスとかリベラルアーツ、リジェネレーションに引かれているということで、結構商工会議所でもそうしたイベントを開くと結構興味がある方が首都圏からビジネスパーソンがいらっしやったり、そしてそれに関するシンポジウムなども開くと、結構そういう形にあるものではないんですけどそういったところに結構来るというようなことを考えるとそういったものを散りばめていくような必要があるんじゃないかなと思います。

そういう意味では四国遍路あたりはかなりそういう欧米の方の富裕層が、しっかりただ遍路を回るだけじゃなくてそこで何かを埋め込むというようなことが非常に大事だろうなと思います。記録が残っている中でこの周辺部というのは、広島の大厳島神社であるとか、大三島の大山祇神社に札所があったというこういう文献があるようでございます。だから元々四国だけでなくこの瀬戸内圏でそういう巡礼とかそういうことをやっていたという記録があるので、何かその辺りもヒントとして四国遍路を活用した事業創造なんかできるんじゃないかなというふうに思っております。そういう意味では広島と愛媛の連携というのは非常に大事だろうなというふうに思ってますので、会議所としてもそういったことに色々取り組んでいきたいなというふうに思っています。以上です。

(愛媛県 中村知事)

ありがとうございました。

それでは続いて松藤会頭、よろしくお願いします。

(広島県商工会議所連合会 松藤会頭)

広島商工会議所の松藤でございます。

私も昨年の11月に会頭就任ということで、初めての参加になりますので、よろしくお願いいたします。

商工会議所という事でございますので、私の方からは広島県特に広島商工会議所として、どんなことに取り組んでるかを中心に時間の限りもありますのでご説明・ご紹介していきたいと思います。

まず、このしまなみ街道への誘客につきましては、会議所の事業といたしまして、因島商工会議所が中心となって2019年に発足しました因島サイクルツーリズム振興協議会というものがございます。この協議会、サイクリングしまなみへの運営協力の他、グラベル・ロードバイクの聖地、そしてコースの整備であったり、安全性の強化、そしてPRにも努めているところでございます。また近いところでは、令和4年度から日本唯一の自転車の神社として知られてます大山神社との共催ということで、サイクリストの健康安全と自転車関連産業の繁栄を祈願する、「自転車神社祭り」というのが開催されています。昨年は約2,000名の方にご来場いただいたと聞いております。そして、「のろのろ一本橋全国大会」、いかにゆっくり走れるかという子どもから大人まで楽しめる催し等も実施をしています。今後こうした地域のイベントを通じて広島県内、そしてそれがひいては愛媛にも繋がっていくというそういうサイクルツーリズムの振興に貢献をして参りたいと考えております。

両知事からも発言がございましたしまなみ海道開通30周年に合わせて、サイクリングしまなみの2029年、1年後ろ倒しの開催ということに対しましては、このサイクリングしまなみの知名度をさらに高めるよい機会になると思えます。先程申しました因島の活動に対しても後押しに繋がるものだと思いますので、是非2029年、せっかく節目の30周年の大会ということになりますので、一緒になってこれが成功できるようにどんなことをやるかということも含めまして、今後協議を進めていければと思います。

サイクリングなどで疲れた体を癒すということできまると、やはり温泉ということがどうしても繋がってくるんだろうなと思います。これが滞在時間の延長であったり、宿泊にもやはり繋がっていくと思います。官公庁のインバウンドの消費動向調査、去年の2025年度ですけれども、日本滞在中に温浴をされた体験というのは実は27%しかございません。しかしながら次回もう1回日本に来た時には「温泉に入浴をしてみたい」という方が大体倍の51.4%に上って

いる。「日本食を食べる」ことというのも結構高い皆さんの思いなんですけども、次回体験したいこと上位にこの温泉ということが入ってきています。幸い愛媛県さんには道後温泉ですね、温泉を持ってらっしゃいます。残念ながら広島県は温泉ということでいくとなかなかお呼びすることができないんですけれども、瀬戸内海の大崎上島ではきのえ温泉が結構有名に捉えられますが、こういったことをサイクリングとあわせて情報発信をすることで滞在期間・滞在時間の延長、これはまさに広域の周遊・観光に繋がっていくんじゃないかと思いますので、ぜひ一緒になってこれを進めていけたらと思います。

広島には泊まるけども福岡にというふうに言われましたけれども、広島はどちらかというと泊まっていただけないとまだまだ実は思っておりまして、いかに泊まっていただくか、そして福岡に行ってもらうため若しくは大阪・関東から来られるんですけど、1日みられたら戻られるんですね。そういうデータも出てますので、そこは広島だけじゃなくてさっきの話ではないですけども、広域で連携をしてそこで行ったり来たりというそういった繋がりをこれから生み出していけるように、集中的にちょっと協議してもらいたいと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

(愛媛県 中村知事)

どうもありがとうございました。

いろんな意見をいただきました。多様なコンテンツの拡大、ルール・マナー・安全対策の強化、またマインドフルネス・リベラルアーツという視点からの新たなコンテンツの展開、1つの例としては四国遍路、そして温泉の活用の裏付けとなるデータもあるのでリピーターに対して次回はというところを絞った戦略そして30周年の取組、こういったところで意見や合意ができたのではないかと思います。

(2) 水産業の振興について

(愛媛県 中村知事)

それでは続きまして、テーマを水産業の振興についてに変えさせていただきたいと思います。こちらは横田知事からご発言をお願いいたします。

(広島県 横田知事)

ありがとうございます。今年も大変暑い日が続いておりますけれども、この気候変動が水産業に及ぼす影響というのは大変大きいものがあるというふうに日々感じているところでございます。特に昨年から今年にかけての、広島で言えば一番の、水産物でのトップを誇るかきの養殖に関して大変大きな被害が出まして、それに対して何ができるのかということ国とも連携をしながら、これまで半年ちょっといろんな有識者の皆さんに原因究明と対策ということで議論をしていただいております。

ちょっとそのあたりをご紹介したいと思います。まず今回のかきの変死に関しましては、やはり梅雨時期の少雨によって産卵ができなかったということと、あとこの大変暑い夏であったということで、環境ストレスを受けやすいかきが多かったことに加えて、それが長期に及んだということで、場所によっては本当に9割のへい死が見られ、それ以外も5割以上のへい死が見られたという事でございます。冬以降少し残ってるかきに関しましては、ある程度出荷ができるまでに育っていたということなんですけれども、やはり来年に向けてこの海の環境をしっかりモニタリングをし、そして海域ごとにどういった状況にあるかということ、リアルタイムでまずはデータを収集できるような体制というのを今構築しつつあります。それによってその海の状況に合わせて、例えば浮きや筏を移動させるとか、或いはかなり海の下の方が貧酸素になっていたというところがございますので、それを避けるために、養殖の方法をあまり下まで延ばさないなど、いろんな工夫をやっていこうということで対策を進めているところでございます。

こちらの愛媛では貝はそれほどでもないということですが、その他の様々な魚種に関しても、やはり環境変化によってかなり獲れる魚も変わってきているということがございます。例えば水クラゲが大量発生をして、そして漁網を目詰まりさせてしまうとか、或いはアイゴによる藻場の被害といったところにもかなり被害が生じているところでございます。

こういった海面水温の上昇などの対応にはやはり色々モニタリングをしっかりとしつつ、その科学的な知見を集めて対策をしていかなければいけないということでございますので、例えば愛媛県では、令和元年にアコヤガイの大量死という大きな被害が発生したということも承知をしておりますけれども、その際の対応であるとか復旧に向けた取組、そこから得られた知見などについてもぜひお聞かせいただいて、共にこの瀬戸内海に面する県として海洋環境の変化への対応などについて、これからは愛媛県さんとも協力をしながら課題や取組について進めていきたいというふうに考えております。

そしてもう一つ、水産物というのは本当に瀬戸内海を代表する食材として先程の観光振興にも大変貢献していくものであるというふうに考えております。この四季折々に注目される瀬戸内海の多彩な水産物を、瀬戸内魚（せとうちさかな）というふうに銘打って、広島県では広めく発信し、そしてブランド力の向上に取り組んでおり、愛媛県さんとしては愛育フィッシュというふうに銘打って、真鯛とか鯛を始めとした養殖業プロモーション活動に力を入れておられるというふうに承知しておりますけれども、是非こういった取組状況或いは今後の展望などについて、是非意見交換をさせていただければと思っております。以上でございます。

（愛媛県 中村知事）

どうもありがとうございます。

それでは私の方から、まず今年の甚大なかきの被害に対しまして心からお見舞いを申し上げさせていただきたいと思えます。愛媛県はかきは少ないんですけども、養殖かきの種苗は広島県に依存していますので、少ないながらも重要なルートになっていますので、協議会に対して我々が持つ情報を全て提供していきたいというふうに思えます。我々としても従来の種苗を用いた養殖も行っているのですが、2倍体がほとんどですけど3倍体、染色体を3つ持っている3セットのかきを用いた養殖を行ったり、それから実証実験しながらこれからどういう効果が出てくるのかを予算面でもフォローしようということで、6月補正予算で計上したところで

す。アコヤガイは令和元年ぐらいからひどくなってきてまして、正直言ってこれ原因を突き止めるのに相当苦労しました。本当にわからないんですね。国にも参加をしていただいとうやくウイルスが原因であるということは突き止められたんですけども、突き止めたとはいえそれをどうすればなくなるかというところまではいっていないという状況にあります。ただ分かってきたのは、海面の海水温が19℃前後で状況が変わってくるというふうなことがはっきりしてきて、19℃度以上だと多く発生しているということが分かかってきたのと、それから小さい稚貝ほどウイルスの影響を確実に受けているということなので、この辺りからヒントが出てくるのではないかとということで、現在は種苗生産時期の早期化、それから飼育管理の手引、今言ったような特色をしっかりと盛り込んで生産者に提供しています。その結果、真珠の生産量も徐々にですけども母貝も含めて回復し始めて、こうした効果があるんじゃないかなというふうに思えますので少し参考になるかなというふうに考えます。

また、海水温上昇の環境変化これも本当に深刻でございますので、特に宇和海の水温情報は17ヶ所でリアルタイムで見れるように機器を設置してウォッチをしているところでございます。それから、AI等を活用して魚の給餌機で給餌量の自動制御とか、カメラ映像を確認しながらの給餌などのスマート関係の技術を導入した支援にも取り組んでいるところでございます。今お話があったように愛媛県では随分前、私が就任して2期目ぐらいだったか、どうしてこういうことを考えたかという、そもそも肉は天然よりも養殖牛が高級なんです。畜産農家があって手塩に掛けて育ったものが高級になっている。ところが魚の世界というのは、例えば高級な寿司店に行くと必ず出てくるのが、お客さん今日はいい天然物が入っていると言われる。天然の方が上に見られている、これ何でだろうという、ただ単に慣習のなすものであって根拠はない。今は養殖技術でいうともう天然並或いは天然よりも上質な肉質を提供できる技術も確立されているので、どちらでもいいんじゃないか上下なんてないはずだと、だからその既成概念を変える必要がある、養殖という言葉がそれを作り出しているのであれば、別の名前にしようということがそもそもの発端だったんです。県の当時の水産課職員から愛育魚（あいいくぎょ）という名前はどうかという提案がありました。これどういうことって聞いたら、「愛情を込めて育てた魚」「愛媛で育った魚」と2つがかけ合わせてですね、ただ「ぎ

よ」というのが響きはどうかなと思ったので、その県職員のテーマに自分が「フィッシュ」にしようと言って、県職員と私の合同で作ったのが愛育フィッシュという言葉なんですけども、一定の水準を満たしたものは全て愛育フィッシュという名前で出すようになりました。プロモーション活動でもそうしたことをやっていますので参考にさせていただけたらと思います。今現在ヨーロッパ、それからアジア、それからアメリカ・カナダ、こちらの方にも愛育フィッシュの売込をかけているところがございます。少しずつですけども実績が入っているところがございます。愛媛県実は海面魚類養殖業は全国1位の生産量でございますので、しっかりと今後とも力を入れて対応していきたいと思います。

それから最後なんですけど、実は本当にこの交流会議で議論になって広島に対応していただいたのが、カキ養殖の漁具処理の問題ですね。実はそれが昔はもう本当にポンポン海に廃棄をされてました。海流の関係なんですけれども、瀬戸内海ではなくて大半が宇和海に流れ着いているんですね。人が入れない海岸沿いに滞留してるごみをばっと取った時に、その漁具が大量に発見されてですね、何とかならないでしょうかねということで広島の方ではもうそういう不法投棄であるとか、或いは自然にやさしい漁具の使用であるとか、それから発泡スチロールなんかには発信器をつけて発生場所が特定できるようにするとか、いろんな対応をとっていただいています。ぜひ今後ともよろしくお願い申し上げたいと思います。

それでは続きまして、松藤会頭をお願いします。

(広島県商工会議所連合会 松藤会頭)

以前はそういうご迷惑かけていたということお聞きしました、ちょっとしっかり頭の中に入れて帰りたいというふうに思います。

私の方は、横田知事から、かきのへい死の問題かなり詳しくお話をいただいたんですけど、少し補足という意味で話をさせていただきます。確かに昨年来このへい死の被害ということが、かき関連業者の経営であったり、県内の地域経済にとりましても大きな影響を与えることになりました。会議所で昨年12月に特別相談窓口、これを設置をいたしましていろいろ相談に乗ってまいったのですけれども、やはりそのヒアリングによりますと養殖の事業者、そして加工卸売業者のみに留まらず、飲食店そして土産物販等の小売業者、イベント企画設営業者など本当に幅広い業種で影響が出ていたということが分かりました。

昨年12月に事業者に対してヒアリングしたんですけども、6月にもヒアリングを行ったところ、エリアによっては水揚げ量が回復してきた、一部持ち直しの兆しも見られることから、一部という言い方に留めておきたいと思えますけれども、かきは2年間育てていくんですね、去年悪かったということで、結局もう1年次はどうなるか。昨年そしてこの春については、それまでの冷凍保存した商品がたくさんあったので、これで賄ってきたということがあるんですけども、これがずっと続いていくと在庫も底をつくということもありますので、今後また動きをしっかりと注視をしていきたいと思えます。これは先程説明がありましたけれども、有識者会議ということでいろんな原因として、いろんな複合的な作用があったということで取りまとめていただいています。今後専門的な見地による継続的な調査分析を進めていただきまして、事業者の不安が払拭されるように、具体的な対策を打ち出していきたい、我々としてもいろんな情報をしっかりと掴んでそれをお伝えをする中で一緒になって連携をしていきたいと思えます。

この瀬戸内海の環境の変化ということになるんですけれども、この水産資源を維持していくことで、これは非常に貴重なことだと思います。持続的なこういった水産業の振興を図る上でも重要な取り組みであると思えますので、環境保全に向けて地域で両県で取り組む具体的な発想もあるのだと思えますので、ここはしっかりと連携をしてもらいたいと思えます。

1つ、先程横田知事の方から瀬戸内魚というお話がありました。今日ここに来て実は中村知事の方から、愛媛と広島では獲れる魚が違うんです、だからいいんだと、だからお互い連携すればいいんじゃないかということで、愛媛県の方では鯛・アコ、広島の方では小イワシと言われました。東京の方では小イワシそのまま小さくて食べるのかというふうに言われるけど、食べたならおいしいねということで、こんなのが新鮮に食べられるんだということもあります。そして、それ以外メバルだったり小魚と言いますか、広島のものもありますので、ここはぜひお互いが競争というのはもちろんいい意味での競争があってもいいと思うんですけども、ぜひそう

いったこ瀬戸内に来ればおいしい魚が食べられる。おいしい魚を食べたいという需要があると思いますので、ぜひお互いパイを取りあうのではなくて、やはり相乗効果をしっかり取りながら、どうやったらそれができるかということを今後真剣に議論しながら進めていったらなというふうに思いました。

その土地でしか知らないそういった味覚とそれから食というものが、インバウンドを含めた観光振興における重要なコンテンツになると思います。ぜひ広島名産かきということもありますけれども、両県のこういった各地の水産物など食の魅力、これを地域イベントなどで引き続き発信をする、先程の記念大会もそうですが、そこに向けてしっかりと連携したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(愛媛県 中村知事)

それでは続きまして、三好会頭をお願いします。

(愛媛県商工会議所連合会 三好会頭)

水産業の振興ということなので、少し商工会議所というよりもどちらかと言うと銀行の立場としてこの水産業をどうするかみたいなことでお話をしたいと思います。

足元で起こっていることはすごい生産コストが高まっているということですね。特にコストに占める飼料、要はえさの割合が非常に高いということで、近年の世界的なインフレになっていることもそうなんですけれども、その飼料の原料であるカタクチイワシ、そこから油を絞ってそれを餌に混ぜて魚に食べさせるわけなんです、このカタクチイワシが世界的な不漁となって、南米沖とかあの辺でたくさん取れるのがあんまり取れなくなって、コストが上がっている。そうになってなかなか利益が出にくい体質に今養殖業はなっているのが足元の現実です。

今回の先程あったようなかきの問題、海洋環境の問題も変化しているということで、ある意味コストに繋がりますから、そういったことで生産はできてもなかなか利益が出ない、次の投資に持っていけないみたいなところがどうしても出てきているというのが、今養殖業を含めた課題です。愛媛県は養殖で850億円ぐらい生産高があります。そして、海面の普通の漁師が釣っているものを入れると1,000億円以上あるということなので、日本全体で6,000億円ぐらいの養殖市場なので結構なシェアも我々愛媛県にあるんですけども、その産業が非常に大事だということです。そういった中で、実は我々の南予の方では小規模な養殖業者が非常に多いということで、なかなかその環境問題とかいろんなことに対応していくのも、デジタル化に対応していくのも、やはり規模が大きければできるのだけどというようなことが結構ありまして、そのあたりが課題になっている。1つの事例として、規模の大きいところはいろんなことをやって、例えばワクチンを魚に打ったりするわけですね。だからワクチンを魚に打つと結構へい死しないということで、何ヶ月かの時に打つらしいんですけど。そういったことをしながらやっぱりきちっと出荷をしていくと、それと品種もちょっと変えて真鯛は愛媛県が日本でトップなんですけれども、その真鯛も実はセンネンダイというのを大西水産さんという愛南の方で作ってるんですけども、そこは普通の真鯛が1キロ今900円ぐらいのところ、1キロ2,000円で市場に出てくるということで、そういった付加価値をつけながら産業として皆さんが競争しているということです。

実はコロナ前ではあったのですが、我々伊予銀行のシンクタンク地域経済研究センターがノルウェーにも視察に行ってます、その時愛媛県の農水の方も一緒に、あと小売サプライチェーンの所も行ったんですけど、ノルウェーのサーモンが2005年ぐらいまでは日本の養殖の方が生産高が高かったんですが、この20年間で今ノルウェーが断トツに3倍ぐらいになってまして、日本はほぼ横ばいなんです。それがやっぱり生産効率の問題と、ノルウェーは海外に向かってマーケットを開拓していて当然日本も買ってますよね。昔はサーモンは生で食べたりしなかったらしくて、今はほとんど生ですよ。そういったマーケットを見て開拓をしていくということで、その生産効率も日本の約7.8倍だったそうです。ですから、ノルウェーの人気の職業は養殖業らしくて、大卒で入るともう当時から1,000万円軽くスタートの年俸であるらしくて、その場合生産が要は国家戦略みたいなところがあると思うのですが、日本の場合は先程もちょっと述べた漁業権の問題があって、中々大規模化ができなくて生産効率が悪いという課題があるので、特に瀬戸内あたりはそういった漁業権トップみたいなところをちょっと外

して、本当に産業としてやるのであればもう少し取り組み方があるのではないかなと、一緒になってというようなことを水産業については感じています。

そういった中で、我々取引先にもいろんなサポートをしますが、今回日本政策投資銀行とこの2月にレポートをまとめて公表しておりますので、是非我々もその作成に関わっておりますので、水産業・養殖業の課題みたいなことをまとめておりますのでぜひご覧いただきたいと思います。

(愛媛県 中村知事)

ありがとうございました。

この分野ではかきの被害とアコヤガイ被害で両県悩んでいるところなので情報共有しながら対応を模索していこうということ。それから瀬戸内魚、違いをコラボしてそうしたPRに努めていこうというところ、それから海水温の高温対策・飼料コストの問題の分析結果もいただきました。

特に天然魚もおいしいし養殖魚もおいしいと思うんですが、世界的に見ても漁獲制限の拡大やそれから海水の汚染問題、地域によってはもう本当に海水の汚染が深刻化していった、発展途上国なんかは廃液なんかどんどん出していきますからそういった問題、それから海水温の上昇の問題、地球温暖化とかははっきりしておりますけれども、そういうことを考えると、資源を循環させる養殖業って未来があるなと個人的には思うんですね。だからどう産業として位置付けるか、確かに今コスト的に見ても鯛ですと数年前まではキロ700円で採算ラインだったのが、今はキロ900円が採算ラインになっていると。その影響というのは物価・燃料費の状況と、三好会頭のご指摘の通り市場価格の上昇が背景にあって、採算面も上がってはいるんですが、やり方によってどう価値をつけていくのかという研究と、それから一方では飼料等々に開発余地があるんじゃないかということで技術を使ったコストダウン政策、両方を追求してせっかく両県でそういった研究をしていると思いますので、単独ではなくて持ち寄って水産業の発展に寄与できたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

(3) 若者や女性に選ばれる地域づくりについて

(愛媛県 中村知事)

それでは続きまして地域づくりについて、これは私の方からまず若者や女性に選ばれる地域づくりです。非常に頭が痛い問題でして、特に人口減少問題に直結をしている課題になってきます。特にコロナ後も東京一極集中がさらに拡大をしています。愛媛県でいいますとピーク153万人が現在126万人、このまま何もしないで放置すると現在の出生数や流出の動向を機械的に想定すると、2060年には65万人台になると、とてつもない数字であります。それを回避するために、今は何もしないという前提ですから、出生数を上げる対策を色々考えてはいるんですが、これはもう根本的な解決策というのは人生観・結婚観に直結しますので、すぐに的確な解決策が見出せるわけではなく、場当たりのものではありませんけれども流出人口や流入人口、こういったところにも目を配りながら、総合的な対策を考えていく必要があると思います。

特にこのテーマで言うと深刻なのは、愛媛県もそうですけど、ほとんどの地方がそうだと思うのですが、18歳から24歳の若い女性の流出が圧倒的に多い、ここが非常に深刻でございます。特にこれに対応するために、早いうちから魅力ある職場が身近に愛媛県内にあるんだということを知ってもらうということ、知らないから出て行ってしまうという状況に対策を打つということ。それから、仕事とプライベートを両立できる職場というのが今の若い子には必須条件になってきているので、経済界にも一緒になって動いていただいて働きやすく、働きがいのある職場、子育てにやさしい或いは女性のキャリア制度がしっかりしている。そういった職場作りに手を入れていくということ、そして私も毎年大学へ行っていかに愛媛がいいかというのを講演するようにしているんですが、アナログ的な直接の問いかけ。ありとあらゆることをやりながら対策を打っているところでございます。

その結果、流入については結構成果は出ていまして、平成27年度は移住者が年間愛媛県は270人だったのですが、昨年度は7,200人まで来ています。これはもう四国では断トツの数字であります。今年度は目標8,500人を打ってるんで、まだあと一押しだということで発破をかけているところでございます。一方で、これだけ移住者を獲得しても社会減が発生しているとい

うことは、若者の流出がそれ以上にあるということですから、ここの対策をしっかり打たない限り人口減少から脱出はできないということになるかと思いますので、しっかりと対応を続けていきたいというふうに思います。

そこで稼げる産業の育成、そしてそれに関わる企業の誘致等々にも力を入れてまして、現在こうしたことを議論し、人のネットワークを作る場が必要と判断をいたしました。そこで、たまたま建替時期を迎えていた県庁の第二別館を全面リニューアルいたしまして、単に建て替えるのではだめだということで、全く異次元な建物にしました。この第二別館は職員の職場環境改善のシンボルにしようということで、全てがフリーアドレス制のオフィスになっています。それから3階は総合防災オペレーションセンター、これも大規模災害時の拠点、そして1階・2階は完全フルオープンの官民共創拠点 E:N BASE という名前にしています。これを開設いたしまして、ここで官民共創の課題解決や事業展開、民官共創の同様の展開、民民共創の可能性の模索、こういったことを創り出していく空間としてスタートを切ったところでございます。先月からスタートを切りましたが、非常にいい調子で経済界もどんどん積極的に利用していただいてまして、いろんな事業が動き始めていますのでこうした取組をしながら、愛媛に残りたい、愛媛に残った方が良さそうだ、愛媛県で生涯を過ごしていこうと考える若者が増えるように全力を尽くしていきたいというふうに思います。

では続きまして、横田知事の方からご発言をお願いします。

(広島県 横田知事)

ありがとうございます。

この人口の問題は本当に東京以外のほぼ全ての県が悩んでいるところではないかなというふうに思っているのですが、広島県におきましても若者の転出超過というのが大変大きな課題になっております。そして特に女性ですね、若い女性の方の転出が多いということで、これは本当に県内の様々な活力という面では大変懸念をしているところでございます。広島県も自然減対策と社会減対策で様々な取組をしております、実はちょっとコロナの後ですね大変流出が増えておったんですけれども、ここ直近2年では少し改善が見られているということで、背景にはやはり経済が立ち上がって特に若い人達が働きたいと思うような職業が地域にあるということが大事だと思いますので、仕事作り、成長産業であったり或いはITを含めて様々な産業が立地をしているということが重要かと思っておりますので、これを進めているところでございます。私も知事になりまして、人を引きつける地域づくりというのを掲げて、広島で働き暮らしたいと感じてもらえるような対策を、様々な面で前に進めているところでございます。特に若者が住みたいと思う県、そして女性が働きたいと思う県というのを打ち出してやっているとございます。

いろんなこれまでの成果ということで言いますと、企業誘致に関しては大体年間30件を目標にして、これまで平成28年からやっております、今241社が様々な本社であるとか研究機関、研究開発企業を誘致ということでやってきております。そのうちデジタル系の企業が大体半分ちょっと6割ぐらいの139社ということで移転しているところでございます。そして県内外のスタートアップの支援に力を入れておりまして、特にAI開発者と県内企業をマッチングした実証実験であるとか、或いは半導体関連産業の集積に関する新しい取組も打ち出しております。先ほど中村知事から愛媛県庁でも新しく人を繋ぐ取組ということで始められたというお話がございました。広島県でも広島市の中心部に、「イノベーション・ハブ・ひろしま Camps」という場所を設けて、よそから来る人、そしていろんな新しいイノベーション或いは新しい事業を起こしたいと思っている人たちがいろんな相談をしたりとか、ワークショップをしたりとかそういう場所というのを作っております、今6,000人以上がそこを登録して様々な活動に携わっていただけているという状況でございます。こういったことも含めて、しっかりと取り組んでいきたいなというふうに思っております。

またいろんな会社があるという、この地元の会社の魅力がなかなか伝わりにくいというところがございまして、これを今大学生の段階から実はLINE登録をしていただいて、そしていろんな仕事の企業の情報発信を直接届けるという取組であるとか、20代で広島で働いている人達が就活サポーターという形で、大学生の方にアドバイスをしていく、或いはイベントを開いて色々な相談に乗っていく、こんなところも取り組んでいるところでございます。

そして特に女性活躍という面では、やはりそれぞれがこうありたいと思うですね、生活であったり暮らしができるということが大事でありますので、キャリアと子育てとがしっかりと両立できるような環境を作っていかなきゃいけないというふうに考えております。そういった観点から今、共家事・共育てということで、やはりまだまだ家庭内での家事育児を女性が負担しているという状況がございます。女性の就業率は上がっているんですけども、なかなか家庭内でのそういった分担ができていないというところが見えてきましたので、今、企業さんにも協力をしてもらって、共家事・共育てを企業として応援していただく。そういうチームを作っていいただいて、チーム共家事・共育てということで協賛企業を認定しまして、従業員の啓発であるとか、或いは職場環境をそういった男性の育児休業を取りやすくするための職場環境に取り組んでいただくような、そんな取組をしているところでございます。誰もがライフステージの変化に関わらず自分らしい暮らし方・働き方ができる環境整備というのが必要であろうというふうに思っております。

私ちょっと個人的にやはり思うのが、地域に暮らしているそれこそ中学生とか高校生とかに、やはり性別に関わらずいろんなところで活躍しているという姿をしっかりと見せていく必要があるんじゃないかと思っておりますので、色々なイベントだとか或いは職場のことで外に露出していく時に、やはり男性も女性もどっちともが活躍しているという姿をしっかりと子ども達に見せていくような、そんな取組をこれからやっていきたいなというふうに考えております。この件は大変難しい課題でもございますので、ぜひ愛媛県さんともしっかりと連携しながら、いろんな取組のアイデアをまた交換できたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(愛媛県 中村知事)

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、三好会頭をお願いします。

(愛媛県商工会議所連合会 三好会頭)

まず商工会議所で今取り組んでいる事例の紹介をさせていただきますと、今、松山ウイメンズアクションリーダーズという組織を立ち上げて運用してまして。これはどういう組織かというと、この会のリーダーとして松山商工会議所の守谷副会頭で女性なんですけれども、この方にリーダーになっていただいて運営をしています。これは各企業会員の女性経営者のメンバーを集めて、地域で女性が輝くための事業を積極的に開催しています。特徴的な事業としてはメンバーの女性をメンターとし、自社以外の若手女性社員のメンティとして、要は他社の女性のメンティをメンターするという取り組みをしてまして、中々社内で行くと相談できないけどこの人だったら社外なのであまりプレッシャーがかからないみたいなことで、結構それが受けているようで、悩みとかどうやってロールモデルをやろうかということを知りたくても聞けないみたいなんですね。そういった結構細かいお話をするようなんですけれども、そこはルールの中でやったら、結構女性が管理職になろうかとか。もう1歩目指して経営者になろうかというようなことも少しずつ起こってきているようです。

その中で大事なことは、やはりこのサステナビリティとかウェルビーイングという観点ですよね、働き方とかそういう意味では地域で暮らす人の幸せとか地域ごとにそう考えていく必要があると思うんですけども、そういう中で、愛媛大学と協力し連携して、そういった研究のシンポジウムを会議所としてやっていまして、これが次の世代の新しい価値について話し合ったりそういうことで、地元に残って仕事をしてもらうという環境をしっかりと整えていくということが会議所の活動として大事ななというふうに今思っているところなんです。

(愛媛県 中村知事)

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、松藤会頭をお願いします。

(広島県商工会議所連合会 松藤会頭)

今の人口減少ということもありますし、転出超過ということもあります。知事が就任されて

以来、そのことを何とか改善、いい方法ということで推し進めようとしておりましたので、会議所・広島県の連合会も含め、広島県全体の問題として捉えて、みんなで常に意識をして今こういう状況にあるんだということを、やはり常に思っていたくということが大事です。私の名刺を見ていただきたいのですが、常に「Stay@広島」と入ってまして、これを広島商工会議所が発信をして1つのキャッチフレーズ・合言葉にしていこうということで、常にこれを見た時に、我々が今直面してる課題はこれなんだねということを考えていただいて、それでも先ほど18歳から24歳の特に女性が出て行かれるということがありました。今だけじゃなくて、横田知事もその頃には東京の方に行かれるということもありましたけども、今こうやって広島で知事をされているということで、その当時その年代というのが出ていくというのは決して否定するものではないんですけれども、やはり何年か経ってやはり地元に戻りたいというふうに思っていたく。そして住んでみたいと思っていたくということと、県外の方が広島にステイ、行ってみたい、泊まってみたい、そして定住してみたいというふうに思っていたけること。でもその前に一番にあるのは、やはり住んでいる我々がこの街が本当に好きで楽しく、安全で笑顔が溢れていて、ルールとかマナーがしっかり守られていてホスピタリティ溢れているという地域広島であること。そこが原点だと思いますからそういったこともひっくるめまして、ちょっとあまりにも幅広くなって難しいかもわかりませんが、やはりそういうのを意識してこれからも進めていきたいということで、この「Stay@広島」、「ステイひろしま」という言い方をしていますけれども、これを進めていきたいなというふうに思っています。

一方、広島県さんの方で「それ広島で」というキャッチフレーズで同じように発信されているんですね。これは就職・ここで働くことにちょっと簡単に言うとフォーカスされていて、それ広島でできるじゃんということなんですよね。ぜひ広島いろんな企業もあるからそこにちょっと注目していただいて、働いてみようよ帰ってこようよというふうにして欲しいという発信をされてます。他にもいくつか動きがあるんですけども、今ひとつ私が思ってるのは、いろんなことがちょっと立ち上がり過ぎていって、向かってらっしゃることは一緒なんです。でも、それぞれ役割はもちろん別々で、そこに向けてここをやろうということで進んでるんですけども、ぜひ今後は経済界と広島県さんと一緒になって1つの方向の中で、ここはここ、これはちょっとやっぱり役割をきちっとつけた上で、効率良くそして効果的な取組をしていきたいなというふうに思いました。

県庁第二別館、ぜひちょっと行ってみたくなりましたので、官民共創ということで、おそらく競争「コンペティター」じゃなくて共に創るということだと思います。非常に良かったのは、官民・民官・民民で作出すという言い方をされましたので、この言葉も非常に素敵だなと思いました。で、私もこれからいろんな場面でちょっと使いたいと思いますので、そのためにもまずどんな動きを、そして皆さんがそこに集まられてどんな議論があって、それが具体的に動かされていって実現していくのか見てみたいなと思いましたので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

(愛媛県 中村知事)

どうもありがとうございます。

共家事・共育てこれすごく大事な視点で、男性女性ともに育児に協力するという体制がある家庭とない家庭では、第2子の出生の状況に影響するというデータも出ていますので、時代がもう本当にそういう役割を両方で共有しながらやろうという時代に入りましたのでぜひ広めていきたいと思います。

また、民間からのそれぞれの取組、他社の女性のメンターというのは面白い発想だなと思いますし、広島では「Stay@広島」と民間ならではの取組をご紹介いただきました。それぞれ連携できること、ともかくこの分野というのは回答・答えがないので、お互いがやっていることを共有して参考にしながらどんどん充実させていくというのが一番良い道筋ではないかと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

それでは予定した時間をちょっと遅れてしまいましたけども、ここからの進行は司会に返させていただきます。どうもありがとうございます。

4 閉会あいさつ

(愛媛県 企画振興部長)

ありがとうございました。

それでは最後に閉会にあたりまして広島県横田知事さんからご挨拶をお願いします。

(広島県 横田知事)

ありがとうございます。

本日は中村知事さんをはじめとしまして、愛媛県関係者の皆様のご配慮によりましてここ大三島においてこうした有意義な会議ができました。意見交換ができましたことを本当に心からお礼を申し上げたいと思います、ありがとうございました。

この大三島はしまなみ海道のほぼ中央に位置して、そして古くから里山の文化を繋いできた島であるというふうに認識をしております。現在も国内外から多くの人々が訪れて、この交流の拠点となっているということでございますけれども、この広島県と愛媛県を結ぶ架け橋のようなところですね、こういった有意義な意見交換ができましたことを本当に嬉しく思っております。

先ほどもちょっとお話しましたが今回 31 回目ということでございます。やはり今日もいろいろと案内をしていただく中で本当に近いと、この瀬戸内の多島美をしっかりと堪能できるところを愛媛県さんと広島県で本当に共有をしているというふうに言ってもいいんじゃないかなというふうに思っております。こういった交流をしっかりとこれからも深めていければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

そして今日は観光振興・広域観光の件、そして水産業の振興、人口減少対策、どれも両県が直面してる大きな課題だと思います。今日いただいた様々なヒントも含めて、これからそれぞれ対策に生かしていきたいというふうに思っておりますし、また折に触れて、いろんな意見交換をしながら取組の進歩をさせていただきたいというふうに思っております。

それでは今後とも、両県全体のさらなる発展に向けまして一層の連携を深めていられるようにということでお祈りしまして、私からの閉会のごあいさつとさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

(愛媛県 企画振興部長)

どうもありがとうございました。

それではこれをもちまして令和 8 年度広島・愛媛交流会議を終了いたします。

本日はご協力いただきありがとうございました。ここで商工会議所三好会頭と松藤会頭は退席されます。広島・愛媛県知事はこの後記者会見を行います。

5 終了後の囲み記者会見

開催日時：令和 8 年 7 月 27 日（月） 14:50～15:10

開催場所：大三島憩の家

出席者：愛媛県知事 中村 時広

広島県知事 横田 美香

(愛媛県 企画振興部長)

それではこれより記者会見を始めたいと思います。

すいません時間がちょっと押してしまいまして、時間 15 時 10 分まで可能までとさせていただきます。

ご質問のある方は挙手の上、社名とお名前をおっしゃっていただいてからご質問をお願いします。

(記者)

テレビ愛媛の八木です。

先程中村知事の方からしまなみ海道開通 30 周年を記念したイベントを提案されたと思いますが、もう少し具体的にどのようなイメージなのかお聞かせ願いますか。

(愛媛県 中村知事)

まだこれから検討なので何も具体案が決まっているわけではなくて、せっかくしまなみ海道開通 30 周年を迎えるのであれば、そこに何らかの大きな取組を持ってくるといのは大義名分も立ちやすいんじゃないかなということが 1 点と、それからやっぱりただ単に担当レベルでも前回と同じことをやればいいというようなマンネリ化からは脱出する必要があると思うので、それに合わせて取組をしてみたらどうかという視点と、それからやっぱりしまのわが非常に大盛況で、ある意味では両県の取組を通じて島嶼部の皆さんが非常に元気になられたきっかけを生むことになりました。あれから月日も経つので、この時期にぶつけていく第 2 回目のしまのわみたいなのを考えるというのもいいことではないかなと、まだ時間がありますからすぐにできるものではないので、タイミング的にもしやるとするならば、検討に入るのであれば最高のタイミングなのかなというふうに思っています。

時期についてある程度合意が今日出されましたので、広島県さんと愛媛県で、担当レベルでまたどんなことができるのか、お互いの事情もあると思いますので、できるものについての共通点を見出すべく議論をスタートできたらいいんじゃないかなというふうに思います。

(記者)

しまのわから 10 年以上経って、今だからこしまなみ振興を図る意義等がありますでしょうか。

(愛媛県 中村知事)

そうですね、当時さっき冒頭で申し上げたように、ここで自転車を走る人というのは特別な人、ロードバイクに乗る若くてあいうヘルメットときちっとしたユニフォームで走る人というのはもうごくごく少数でした。そういう方々が細々とこちらの素晴らしさを体感している状況だったのが、あれから 10 数年経って、世界の潮流でもあったんですけども、バイクの進化・電動アシストが登場して、本当に老若男女を問わず楽しめるようなベースが整い、そしてこれまでの取組を通じて、多くの方々がこのしまなみ海道がサイクリストの聖地であるという認識が広がった時に行うしまのわは全く意味が違うと思うんですね。だからさらに押し上げていくきっかけを作れる効果絶大なイベントになることが期待できるんじゃないかなというふうに思っています。

(記者)

横田知事もどのような連携をされていくのかお聞かせください。

(広島県 横田知事)

ありがとうございます。このしまなみ街道というのは、これまでの皆さんの努力によって世界的にも知られるようなサイクリングコースになりました。ただ一方で、島嶼部の人口減少であるとか、やはりもっともっと年々進んでいっているという状況でございます。

今、観光客の皆様が大変多く来ていただいておりますけれども、私としてもこれまでの取組を継承しつつ、さらにその多くの人たちにもっと面的な広がりを持って周遊していただいたり、或いは長い期間ここに滞在をしていただいたり、そこの島嶼部のまさにこの過疎の状況をですね、もっともっと活性化するようなそんな取組・イベントを検討できたら素晴らしいなというふうに思っております。

今日もより高付加価値のものを提供していこうというコンセプトもあったかと思うんですけども、そういったことも考えて今ならではのイベントにできたら嬉しいなと思っております。

(愛媛県 中村知事)

もう 1 点記憶を掘り返してみると、コアなイベントというのは、こういう場合行政の広島県・愛媛県或いは共同でやればいいと思うんですけども、一番の主役は自主企画イベントなんですね、こういうことやりますよ皆さん参加しませんかチャンス来ますよ、その中から住民の皆さんが自発的にこういうことをやる・やってみよう、それは行政もバックアップする、そこで生まれてくるものがある。だからそこを引っ張り出すきっかけが生まれればいいんじゃない

かなというふうに思います。

(記者)

NHKの後藤と申します。

横田知事にお伺いさせていただきます。水産業の振興についてなんですけども、今年も本当に暑いと思うんですが、かきは年単位で育てる必要としますけども、次のシーズンへの懸念といますか、かきの大量死についてはどのようにお考えでしょうか。

(広島県 横田知事)

昨シーズンですね、大変大きな被害が出ました。それを踏まえていろんな科学的な知見とか有識者の知見も含めて対策というものを、今考えそして試そうとしております。

今年も早い時期から大変高温が続いており、大変心配ではあるんですけども、ただ去年からやはり来年こそはしっかりとかきが収穫できるようにしていこうということで、筏の吊るし替えだとか或いは先程ちょっと説明をいたしましたいろんなデータ・海の状況を把握しながら、そういう厳しい状況を避けるように養殖をしていただく養殖方法の工夫ということも今取り組もうとしております。

これは県庁だけではなくて、養殖業者の皆さん自身が様々な実証実験できるようにそういった後押しも県としてもしておりますので、この暑い夏をしっかりと乗り切っていけるような養殖をしっかりとみんなで推進していきたいなというふうに思っております。自然相手ですので、大変厳しいところはあると思うんですけども、是非そういった地元の努力を皆さんにも知っていただきまして、また今度次のシーズン、しっかりとこのかきをまた購入していただいて、食べて応援していただくということも是非ともお願いしたいなというふうに思っております。

(記者)

ありがとうございます。

中村知事にも水産業の件を伺いたいのですけども、海洋環境の変化に対する調査、かきについてはもちろん広島や国がやったかと思うんですけども、他の魚類への影響というのも考えられるという話もありました。こういった瀬戸内の海洋環境の変化の調査の必要性をどのように受けとめていらっしゃるかと、愛媛県としてはどういうふうに関わっていけるかお願いします。

(愛媛県 中村知事)

そうですね、天然魚1つとってみても、僕が子どもの頃に見たこともなかったような魚が見られるんですよね。例えば宇和海・宇和島あたりに行くと、沖縄辺りでしか取れなかったアカベラとかあいう魚が見れるようになってきた。瀬戸内海では僕の子どもの頃は、ウマヅラハギ・ギゾ・トラハゼこれがザコのように釣れまくっていたんですよ。今もうギゾ除いて全部高級魚になってほとんど取れない。だから絶対これ地球温暖化・海水温の上昇というのが、魚の生態系に大きな影響を与えているのは僕は間違いないと思うんですね。

そこで、天然魚は生息地域が変わっていくだけですけども、養殖の場合はそうはいかないので、水産研究所・愛媛大学等もうあらゆる知恵を導入して、こうした高温にも強く育てられる魚の開発、或いは赤潮もそうなんですけども高温によって新たに出てくるハードルに対しての対策、それからそれを根本的に解決する方策の研究、それから根本を論議しても例えば早めのいけすの移動とか人工的に回避できるような対策の研究、やることは山ほどあると思うんですね。だからそれらすべてを対応して臨みたいなというふうに思います。

(記者)

中国新聞尾道支局の藤田といいます、よろしくお願いします。

横田知事と中村知事お二人にお伺いしたいんですけども、先程しまなみ海道のお話の下りで、横田知事の方から課題として、航路の確保をどうしていくかという指摘があったと思います。しまなみ海道の開通に伴って、愛媛・広島県両県の航路事業者でも非常に厳しいところが

あるんだと思います。これは観光もそうですし産業或いは生活インフラとして欠かせないものであると思うんですけれども、その航路の維持確保に関して、それぞれ両県のお立場・考え方というものがあればお答えいただければと思います。

(広島県 横田知事)

私の方から、まさに航路というのは、橋はもちろん繋がってはいるんですけれども、そういったいろんなイベントだとか或いは災害が起きた時という面でも、やはり航路というのは大変島が多い瀬戸内海では道路と同じような役割を担っているというふうに思っております。ただ一方で、島嶼部の人口減少であるとか或いは燃料の高騰でありますとか様々な厳しい状況というのが年々強まっている状況がありまして、これに対しては国も一定の条件の下で、赤字に対しての支援ということをやっているんですけども、中々国の支援策にのらないものも多いんですね。そういったものについては、県であるとか或いは市町から支援をして何とか維持しているような状況であるところが多い。やはりこの状況が続いてくると本当に厳しくなってくるといことで、観光の話もありますけれども、観光で利用するとかもっと利用者を増やすような取組をしっかりと工夫してやっていく、或いはこれから船の更新というのもありますので、是非生活に必要な道ということ、国も支援のことを考えて欲しいというそういった要望もしているところでございます。

いずれにしてもその生活に密着をしている航路でございますので、何とかこれを持続可能な形で続けていくことができるように、いろんな取組をしていく必要があると考えております。

(愛媛県 中村知事)

まず、しまなみの自転車については特別な思い入れがあって、今から13年前に実は最初は愛媛県だけで行った経緯があります。その時は国も全く理解してくれなくて、地元も何ぞ迷惑じゃという声が充満していました。誰もやっていないことをやらない限り、地方にとって情報発信なんか出来っこない。だから、日本で初めて高速道路を止める価値があるということで、批判は全部自分が受けるというような覚悟で国と交渉して1回だけチャンスを貰いました。その時も条件がついてまして、3時間しか認められない1分でも1秒でも3時間超えたら二度と許可しないというところまで言い切られました。当時県庁の職員に喧嘩を買ってきたので皆力を貸してくれと言ったら、皆さんが休みの日ボランティアでやってくれと、お金が出ないし、土日に県庁のところでカラーコーンの撤去の練習をしたりですね、本当に頑張ってくれたんですよ。終わった時には大盛況で2時間59分56秒でリセット完了したんです。それを受けて、もう次もやるかという流れができた。だからその時に、地元の皆さんも最後はしょうがないなという感じで受けてくれたんですけども、その後に訪れてくる情報発信の力ということを知ようになります。でもその後もかなりボロクソ言われました。人が来るようになった、サイクリストが来るようになったけどお金を落とさないぞと、僕はその時に島民の皆さんと話しました。自分は人を連れてくる場所まではやります、でもその人達が立ち止まって足を運んでお金を落とすか否か、それはあなたたちの仕事じゃないかと、何もかも全部行政なんてそんな甘い話は世の中にはないと、人を連れてくるということはチャンスが生まれる、そのチャンスを生かす努力というのは皆さんの力しかないんですよというような話を延々とやった記憶があります。

今、本当にそういう意味では随分変わったなと思うんですけど、飲食店では自然にサイクルスタンドが立つようになったり、もうみんなが自分で考えなきゃいけない、だから広島側も愛媛側も含めて新しい土地がどんどん生まれてくる、新しいカフェが誕生する、レストランが誕生する、宿泊施設が誕生する、移住者が来る、経済効果が確実に現れ始めているなということを実感します。

そういう中で今航路の問題、これも当時からありました。ただこのしまなみの大会というのは人を引きつけるためのイベントですから、もう2年に一遍しかも6時間という限定なので、そこだけは堪えてもらいたい、これはもう説得するしかないと思います。その間ちゃんとフォローするよと、ただ横田知事がおっしゃったように新たな船の使い方、今日もWAKKAでお話がありましたけれども、本当に都会の人たちは船に乗ったことないんですよ。だから船に乗ることがどれだけの感激をもたらしているのか、それを考えると自転車を活用してフェリーに

乗り込むという異次元の体験というのはもう応えられない。我々は当たり前にも思ってるけども応えられない体験だと。それに普及することによって、さらにしまなみに来てそして自転車でフェリーに乗ろうというそういうブームを作るぐらいの気構えでやったらどうなのかなということを感じます。

ただ一方で、横田知事おっしゃったように、この離島の航路というのは単なる船の航路ではなくて生活で使う生活道路と言ってもいいと思います。だから、これは単に採算がどうだという話ではなくて、生活の道路という視点で持てれば、国の責任で持てそれはちゃんとフォローするという事は自然だと思いますし、その点については広島県と一緒に国に大きく働きかけを強めていきたいなというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。

(記者)

愛媛新聞の長谷川と申します。

中村知事にお伺いをするんですけど、国際会議のテーマのお話の中で、サイクリング振興などインバウンドが増えていこうというふうな推察をされてると思うんですけど。その中でルールとかマナーの逸脱というのが観光コンテンツを錆びつかせるというような話をされていたと思います。現状で例えば自転車ルールとか自転車マナー、もしくは観光にいられてる方々のマナー違反みたいな課題があるのかどうか。

もしあるのであればその対策をどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

(愛媛県 中村知事)

これ都道府県ごとにルールの対策が違うので、愛媛県のことしか分かりません。愛媛県のことと言えば、かなりしまなみの自転車対策をやっている時から、例えばヘルメットの着用の条例制定とかいろんな取組をしてきたことがありました。それからブルーラインの標準化それから、1.5m運動の展開いろんなことをやってきたのでそれなりに浸透はしてきたかなというふうには思います。

ただ、やっぱり外国人が多くなってくると併走であるとか、やはりちょっと感覚が違うようなところがあったり、それから当初の初期段階というのは人数も少なかったもので、本当に気持ちのいい挨拶が飛び交っていたと思います。見知らぬ人とすれ違っても「こんにちは」と言う。最近話してもそういう挨拶しても全く反応がなかったりというのは確実にそういう人も増えてきたかなと、或いはどけとか言われて抜かされたりそういう人に出会ったこともありますので、やはり新しい人が入ってくるとそういうことは多少出てくるので、しまなみに来るとそういったこともちゃんとしてくださいよというメッセージを送る空間にして、模範的なサイクリングロードとして広がっていったらベストかなあというふうに思っていますが、いかがですか。

(広島県 横田知事)

今日の話でVelo-cityでいろんなルールとかも決めているという話がありましたけども、やはりそのことはすごく良いことだなというふうに思いますし、自転車を安全に楽しむためのマナーも含めてまさに情報発信がこのしまなみからできるということになれば、もっともっとしまなみのある意味ステータスも上がってくるのかなというふうに思いますので、そこも一緒にやっていければと思います。

(愛媛県 企画振興部長)

それではこれで記者会見を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。